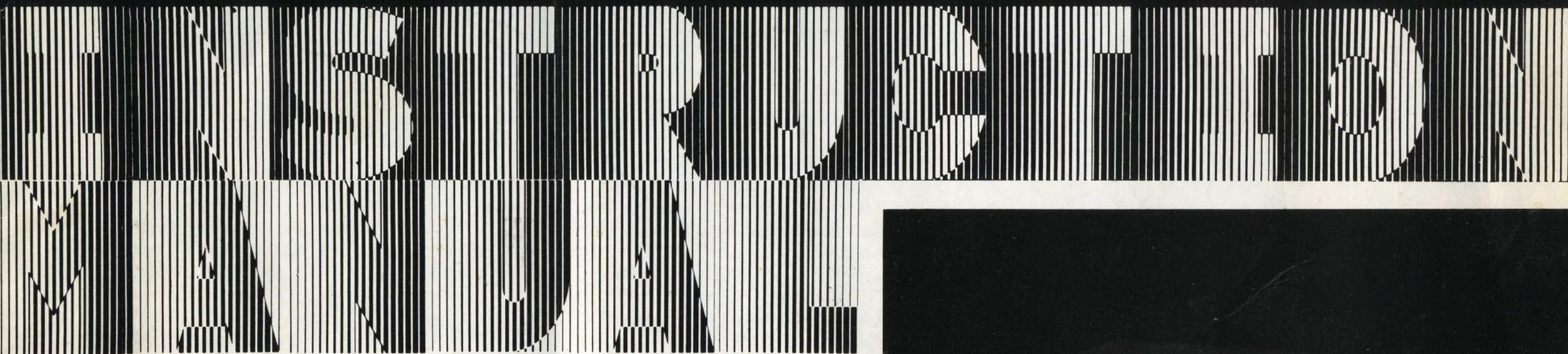


ONKYO



Wスーパーサーボ方式ステレオプリアンプ

Integra P-306

取扱説明書



Handwritten marks and scribbles on the page, including a small mark resembling the number '4' and a larger, abstract scribble.



このたびは、オンキヨー、サーボオペレーショナルプリ
アンプP-306をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます
ございます。

このアンプは、オンキヨーが独自に開発したスーパーサ
ーボアンプをさらに発展させ、セバレットアンプの接続時
の問題も一挙に解決するダブルスーパーサーボ方式を採用
し、MCカートリッジ使用時もダイレクト再生を実現する
高性能サーボによる1ステージMC-MMコンパチブル、バ
リアブルゲインイコライザー、さらにダイレクトトーンコ
ントロール、直結給電方式など数多くのオーディオテクノ
ロジーを取り入れた新しい高級プリアンプです。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正し
い取扱いにより末長くご愛用いただくようお願い申し上げ
ます。また、お読みになったあとは、保証書、オンキヨー
サービス網一覧とともに必ず保存し、万が一わからないこと
や不具合が生じたときにお役立てください。

目次

お使いになる前に	1
主な特長	2
前面各部の名称および働き	3・4
裏面接続図	5・6
操作のしかた	7・8
定 格	8
ブロックダイヤグラム	9
サービスマンをお呼びになる前に	10
特性図	10

P-306 お使いになる前に

■設置について

故障なくご使用いただくために、次のような場所に設置
しないでください。

- 直射日光の当たる所、周囲温度が極端に高い所や極端に
低い所、とくに、通風孔がふさがれるようなせまい棚に
押し込んだり、発熱量の多いパワーアンプの上やストー
ブの近くなど発熱体の近くでご使用になると内部温度が
意外に上がり故障の原因となります。
- 湿気、ホコリの多い所やスピーカーの上のように振動が
直接伝わる所。
- 不安定な台、強度の十分でない棚など、とくに、高い位
置に置かれる場合は十分ご注意ください。
- 本機はハイゲインアンプですのでテレビの近くや、大き
なトランスのついたオーディオ機器の近くなどに置くと
雑音が入ることがあります。
- 花びんなど水の入ったものはセットの上ののせないでく
ださい。もし、本機の中に水が入りますと故障の原因と
なります。
- ピンコードを電源コードといっしょに束ねたり、電源ト
ランスの近くに置いたりしますとハムや雑音の原因とな
ることがありますからご注意ください。

〈ステレオ音のエチケットについて〉

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に
静かな夜間には小さな音でも通りやすく、夜間の音楽鑑賞
には、特に隣り近所へのおもいやりを十分にしてお楽しみ
ください。

■本機の手入れについて

アンプの前面パネル、背面パネル、ケースなどはときど
き、シリコンクロスか、やわらかい布でからぶきしてくだ
さい。

汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液にやわらか
い布を浸し固く絞って汚れをふきとったあと乾いた布で仕
上げをしてください。固い布や、シンナー、など溶剤性の
もの、化学ぞうきん等でふきますと傷がついたり、文字が
消えたりすることがありますからご使用にならないでくだ
さい。

■アフターサービスについて

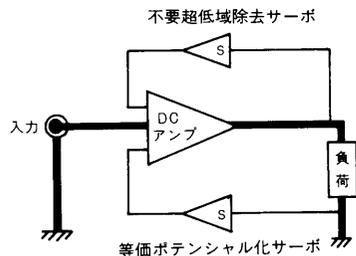
- 1.この商品には保証書を別途添付しています。
保証書は販売店でお渡し致しますから、所定事項の記入お
よび記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
- 2.保証期間はご購入日より1年間です。
保証書の記載内容によりご購入販売店が修理致します。
その他詳細は保証書をご覧ください。
- 3.保証期間経過後の修理については販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望に
より有料修理致します。
- 4.本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品
とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 5.なお、保証期間中の修理などアフターサービスについて
ご不明の場合はご購入の販売店か、オンキヨーサービ
スステーションにお問合せください。

P-306

主な特長

■アンプ内で発生する不要信号を除去し、プリアンプとパワーアンプを理想的に直結・増巾するダブルスーパーサーボ方式

高性能オペアンプによる超低域帰還型サーボ回路を採用した当社のスーパーサーボアンプは、従来問題となりがちであった信号経路に使用するコンデンサーのひずみや、アンプ内部で発生する超低域ノイズ、レコードのソリやトーンアームの共振による低域のもり上りによる音質劣化などをことごとく解決し、アンプの音質改善に抜群の成果を得てきました。本機で採用しているダブルスーパーサーボアンプは、このスーパーサーボアンプを更に発展させ、信号側にサーボアンプを入れるとともに、さらにアース側にも新しいサーボアンプを入れ、アンプ相互間のアース電位を等価にしている為、高度なオーディオ再生に要求される臨場感や生々しさ、空気感といったものを明確に表現し、卓越した分解能が得られます。



Wスーパーサーボ基本回路図

従来のセパレートアンプ方式では、プリアンプとパワーアンプを接続するピンコードに大きな問題点が内在しています。アンプ理論では全く0Ωであるべきピンコードのアース側インピーダンスが、現実には機能性や形状的理由でかなりの大きさで存在しています。これが左右チャンネルの共通アースインピーダンスとして左右信号の干渉が起り、音像の定位等種々の音質劣化が生じます。ダブルスーパーサーボ方式は、サーボセンサー付の特殊ピンコードによりパワーアンプの入力端にサーボをかけプリアンプ間の不要信号発生を抑えた画期的な新開発技術です。

■MC-MMコンパチブル、バリエブルゲインイコライザー搭載

MCカートリッジの優れた再生能力を最大限に発揮させる為、MCトランスのシンプルな良さとアンプの持つ優れた物理特性を兼ね備えたアンプとして新しく開発したイコライザーアンプです。従来のヘッドアンプ+イコライザー方式に換え、ハイゲインアンプにふさわしい裸特性の改善と安定した位相補正技術と電流変換形スーパーサーボにコントロールされたゲイン切換等の高度な技術により1段アンプ方式でMCカートリッジやMMカートリッジの特色を高い分解能でみずみずしく表現します。また種々なカートリッジに対応出来る様に、カートリッジセクターを設け、入力インピーダンスやゲインを切換え、最適結合条件が選択出来る様になっています。

アンプに大切な特性であるSN比も物理データのみならず、音楽再生時の聴感S/Nにも重点をおいた設計です。

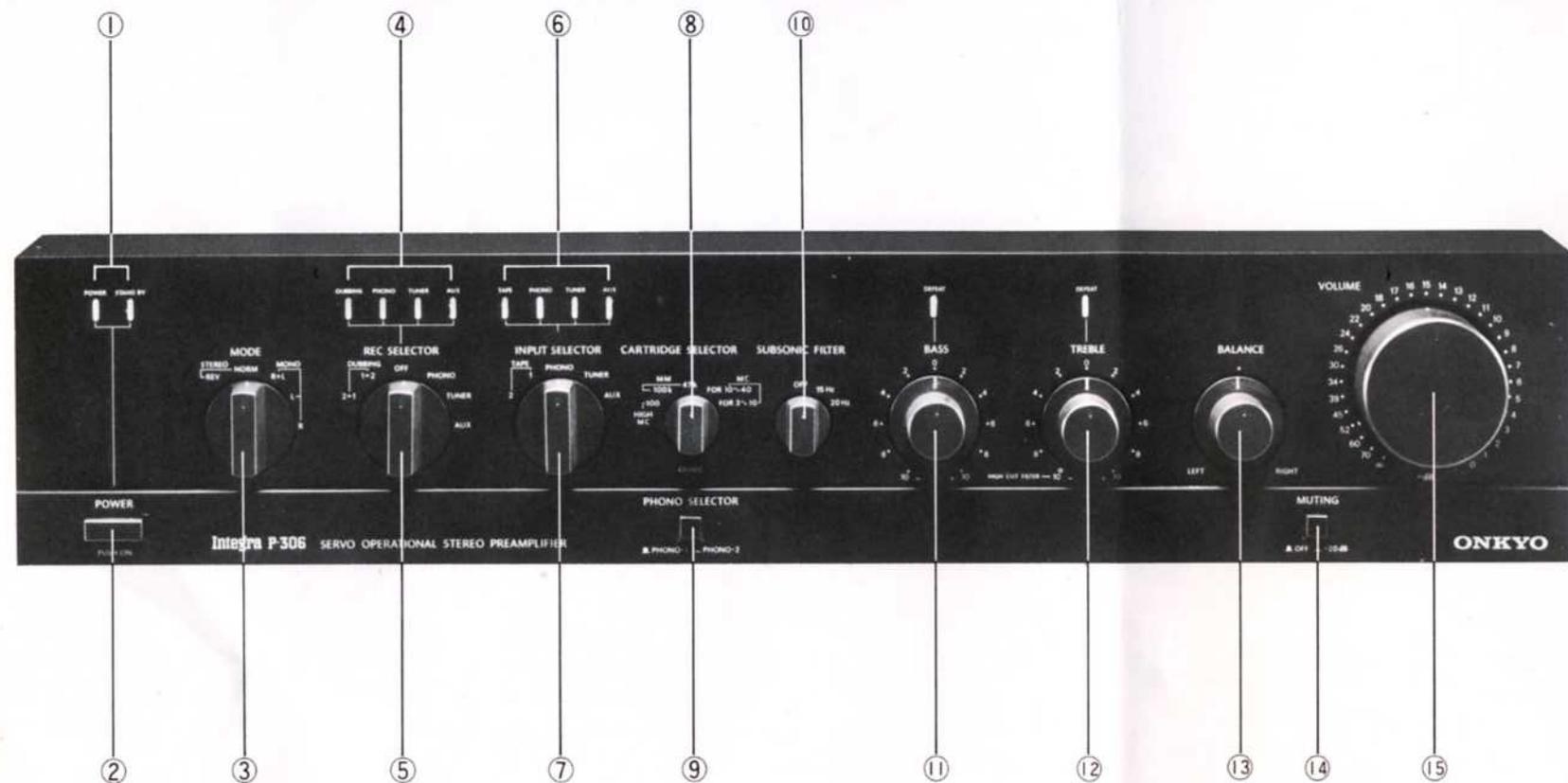
■トーンアンプをなくしたダイレクトトーン方式

一般にオーディオアンプのトーンコントロールはNF型のアンプを使っているため、カップリングコンデンサーやNF直流阻止コンデンサーが入っています。このようなトーン回路方式だとしても信号経路に時定数以外の不要なコンデンサーを入れることになり、せっかくサーボオペレーショナル回路でコンデンサーを除きながらそのトーン回路の部分のみにカップリングコンデンサーが入ってしまい、音質に影響をおよぼします。

本機では、スーパーサーボ方式のメリットをより確かなものにするため、トーンアンプ方式をやめ、トーン時定数に必要なパッシブ素子のみからなる完全直結方式のダイレクトトーン方式を採用し、トーン回路による音の変化もなく、躍動感あふれるクリアな低音が再生されることとなります。構成としてはイコライザーアンプとアウトプットアンプのみで成り立っており、トーン回路のボリュームの位置によりゲインや音質が劣化されることがなく、さらにトーン特性は音量ボリュームと関連をもたせ、実にシンプルな構成としているため、いきおいアンプ自体の諸特性も格段に優れたものとなります。また、トーンコントロールを単なるアクセサリとして考えるのではなく、自由に、かつ安心して音場補正に使っていただけるのがこのダイレクトトーン方式です。

P-306

前面各部の名称および働き



- ① パワー表示ランプ
- ② パワースイッチ
- ③ モード切換スイッチ
- ④ 録音表示ランプ
- ⑤ 録音切換スイッチ

- ⑥ 入力切換表示ランプ
- ⑦ 入力切換スイッチ
- ⑧ カートリッジ切換スイッチ
- ⑨ フォノ切換スイッチ
- ⑩ サブソニックフィルタースイッチ

- ⑪ バスツマミ
- ⑫ トレブルツマミ
- ⑬ バランスツマミ
- ⑭ ミューティングスイッチ
- ⑮ 音量ツマミ

① パワー表示ランプ

パワースイッチ②を押してONにすればPOWER(パワー)ランプが点灯して電源が入ったことを示しますが、STAND BY(スタンバイ)のランプが点灯している間は出力が出ません。

② パワースイッチ

押すと電源が入り、再び押してボタンが出た状態で電源が切れます。

③ モード切換スイッチ

REV……………右チャンネルと左チャンネルの信号が逆になります。

(リバース)
NORM……………普通の使用ポジションです。
(ノーマル)

R+L……………右チャンネルと左チャンネルの入力信号が合成されて出力端子のL、Rともに合成された信号が出ます。モノラル再生や左右のバランスをとるときに使います。

L、R……………Lにすれば左チャンネルの入力信号が、Rにすれば右チャンネルの入力信号が両方の出力端子から出ます。

④ 録音表示ランプ

録音切換スイッチ⑤の位置に従ってランプが点灯します。

⑤ 録音切換スイッチ

2 ▶ 1 } …… テープダビングをするときにこの位置にします。

1 ▶ 2 } …… 詳しくは7頁「テープダビングをする場合」の項参照

OFF……………録音およびダビングしないときはこの位置にしておいてください。

PHONO……………レコードの音を録音するときにこの位置にします。

(フォノ)
TUNER……………放送を録音するときにこの位置にします。

(チューナー)

AUX……………裏面AUX端子に接続した機器からの音を録音するときにこの位置にします。
(補助)

⑥ 入力切換表示ランプ

INPUT SELECTOR(入力切換)スイッチ⑦の位置に従ってこのランプが点灯します。

⑦ 入力切換スイッチ

TAPE-1 } …… 裏面TAPE-1、TAPE-2端子に接続したテープデッキを演奏
TAPE-2 } …… するときにこの位置にしてください。

PHONO……………レコードを演奏するときにこの位置にし、さらにCAR-TRIDGE SELECTOR(カートリッジ切換)スイッチ⑧およびPHONO SELECTOR(フォノ切換)スイッチ⑨を合わせてください。

TUNER……………チューナーからの音を演奏するときにこの位置にしてください。

AUX……………裏面AUX端子に接続した機器を演奏するときにこの位置にしてください。

⑧ カートリッジ切換スイッチ

使用するカートリッジによってこのスイッチを切換えてください。このスイッチを切換えると急に音が大きくなる場合がありますので、このスイッチを切換えるときはVOLUME(音量)ツマミ⑮を左にまわしたのちおこなってください。

MM……………MM型カートリッジを使用している場合はこの位置にし、カートリッジの指定インピーダンスに合わせてください。インピーダンスを指定しないカートリッジの場合は47kΩに合わせてください。

MC……………MC型カートリッジ使用の場合はこの位置にし、カートリッジ指定インピーダンスに近い値に合わせてください。但し、MCカートリッジでも昇圧トランスを使っている場合はMMのところに合わせてください。

HIGH・MC ……MCカートリッジでもMMと同程度の出力電圧が得られるものがあります。このようなカートリッジを使う場合にこの位置にしてください。

⑨ フォノ切換スイッチ

裏面PHONO(フォノ)端子入力切換スイッチです。「1」にすればPHONO-1に接続したプレーヤーを演奏し、押して「2」にすればPHONO-2のプレーヤーを演奏することができます。

⑩ イコライザーサブソニックフィルタースイッチ

レコードのソリやモーターゴロなどによる非常に低い周波数をカットする場合にこのスイッチを使ってください。

15Hzの位置で15Hz以下の周波数をカットし、20Hzの位置で20Hz以下の周波数をカットします。

このスイッチでOFF「オフ」以外のときは信号経路にコンデンサーが入り、スーパーサーボアンプの効果が弱くなりますので、できるだけOFF「オフ」の位置でご使用になる方が音質的に有利です。

⑪ バスツマミ

中央「0」の位置より右にまわせば低音が強調され、左にまわすと減衰します。お聞きになる部屋の状況やお好みによって加減してください。

⑫ トレブルツマミ

中央「0」の位置より右にまわすと高音が強調され、左にまわすと減衰されます。お好みによって加減してください。また、左いっぱいになりますのでスクラッチノイズ、ヒスノイズ、その他高域雑音を取り除きたい場合にこの位置にしてください。

⑬ バランスツマミ

中央の位置より右にまわすと右に、左にまわすと左に音像が移動します。中央にすれば左右の出力が同じになります。

⑭ ミューティングスイッチ

このスイッチを押して-20dBの位置にすると出力が $\frac{1}{10}$ になります。針先をレコードにのせるときの不快なクリック音の防止や、一時的に音量を下げるときに使用してください。

⑮ 音量ツマミ

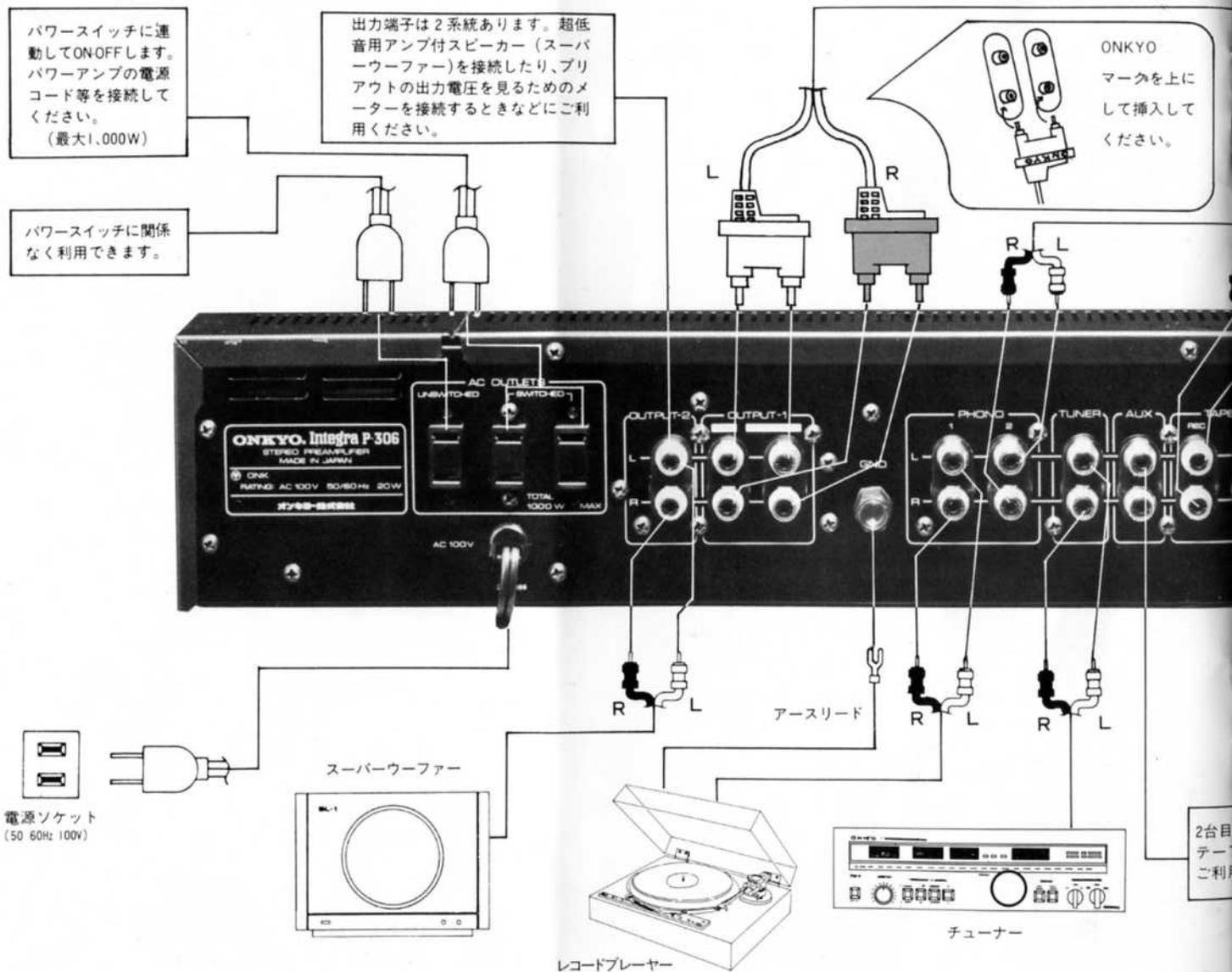
標示はデシベル目盛ですのでツマミの位置によりデシベル単位で出力電圧が変わります。またトーン回路と連動してトーン特性も変化します。詳しくは8頁「音量ブースト特性同時変化方式について」の項をご参照ください。

P-306

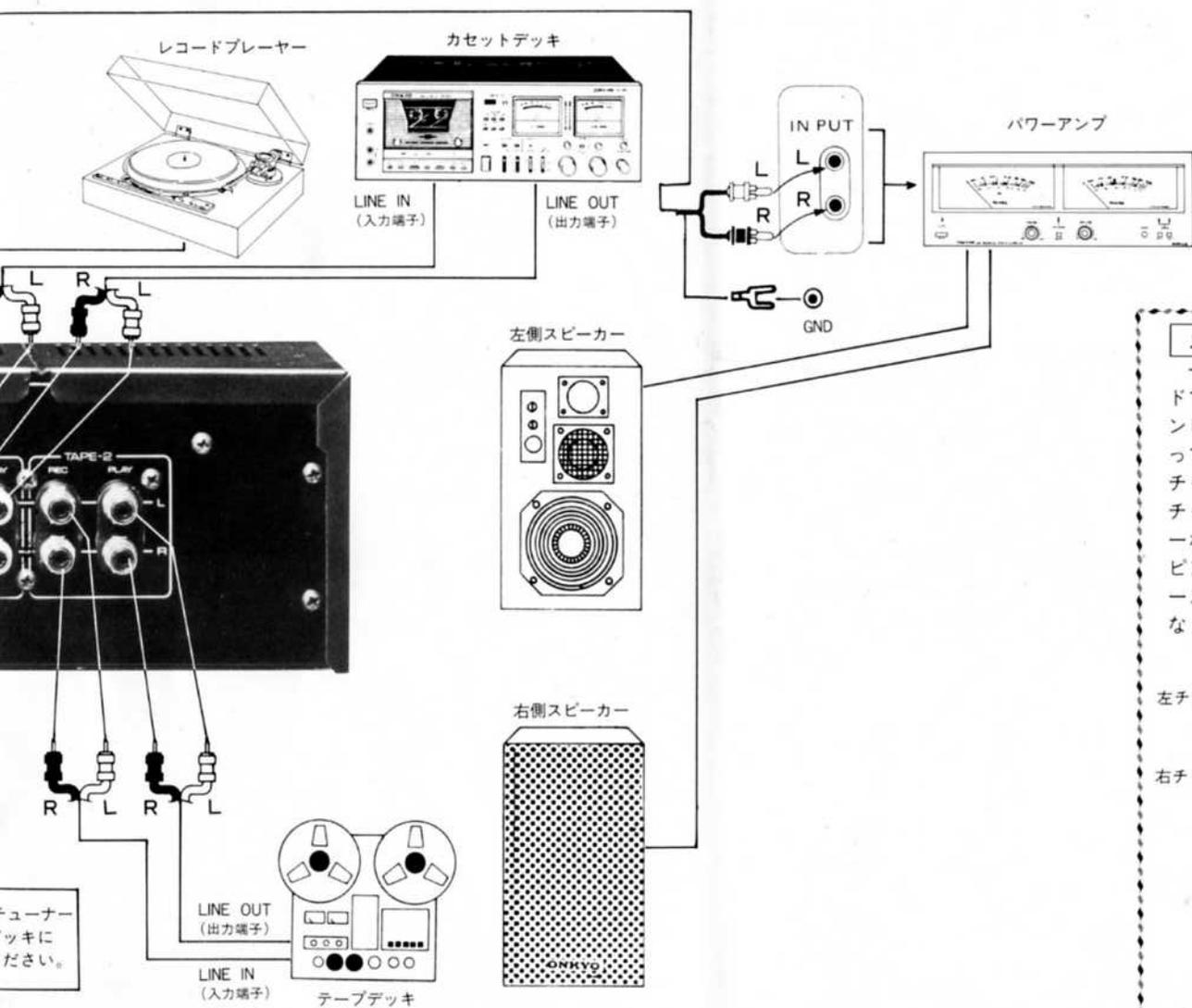
裏面接続図

(注意)

1. すべての接続が終るまで電源コードは差し込まないようにしてください。
2. ピンコードのL, Rをまちがいますと、左右の音が逆の方向から出てまいります。まちがわないようにご注意ください。
3. ピンプラグの挿入が不完全でアース側のみがはずれたりしますと“ブーン”という大きい音が出ることがありますので、ピンプラグは確実に接続してください。
(また、ピンプラグを抜く場合はプラグの根もとをも) って引きぬき大切に取り扱いください。
4. ご使用になるレコードプレーヤーやアンプによってはレコードプレーヤーのアースリードは接続しない方が雑音が少くなる場合もあります。
5. AC、OUTLET端子へはオーディオ機器の電源コードを差し込み、ドライヤーなど他のものの電源としてはお使いにならないように願います。
6. ピンコードと電源コードといっしょに束ねたり、電源トランスの近くにピンコードを置きますとハムや雑音の原因となることがありますからご注意ください。

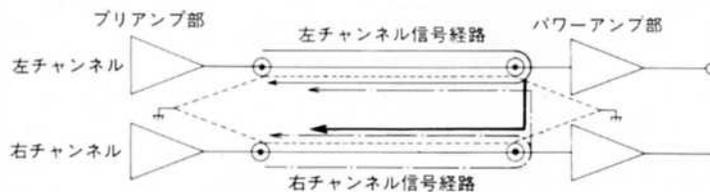


本機とパワーアンプの接続は一般のピンコードを使用してもオーディオアンプの働きをしますがダブルスーパーサーボ回路とはなりません。しかし、やむを得ず一般のピンコードをご使用になる場合は、OUTPUT-1のSIGNAL[シグナル]端子か、あるいはOUTPUT-2の端子とパワーアンプの入力端子を接続してください。また、アース線も忘れずに接続してください。

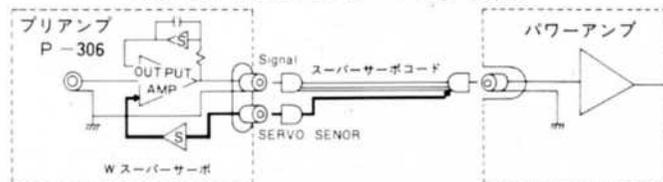


スーパーサーボコードの効果について

一般のセパレートアンプの場合、プリアンプとパワーアンプの間はピンコードで接続されていますが、このような接続方法だと第1図のようにコードのインピーダンスやピン端子との接触抵抗等のため、R独立したピンコードであっても、L R共通のアース線と同じことになってしまい右チャンネル信号が左チャンネルピンコードのアース線に流れ込んだり、また左チャンネル信号が右チャンネルピンコードのアース線に流れたりします。そこで付属のスーパーサーボコードを使用しますと第2図の如くなりダブルスーパーサーボ回路によりピンコードによるL R干渉が無くなりプリアンプ・パワーアンプ両アンプのアースを直結したのと等価になり、ピンコードのアース線による音質劣化が無くなります。



「第1図」通常のピンコードによる接続



「第2図」ダブルスーパーサーボアンプをスーパーサーボコードによる接続

P-306

操作のしかた

■演奏をはじめる前に

下記のツマミの位置を確認したのちパワースイッチ②を入れてください。

MODE[モード]切換スイッチ③はNORM[ノーマル]の位置
REC SELECTOR[録音切換]スイッチ⑤はOFF[オフ]の位置
SUBSONIC FILTER[サブソニックフィルター]スイッチ⑩はOFF[オフ]の位置。
BASS[バス]ツマミ⑪、TREBLE[トレブル]ツマミ⑫、BALANCE[バランス]ツマミはそれぞれ中央の位置。
VOLUME[音量]ツマミ⑮は左いっぱいにならして出力最小の位置。
MUTING[ミュート]スイッチ⑭をOFF[オフ]の位置にしておいてください。

POWER[パワー]スイッチ②を入れるとパワー表示ランプ①が2つとも点灯し、しばらくするとSTAND BY[スタンドバイ]ランプが消えます。STAND BY[スタンドバイ]ランプが点灯している間はミュート動作中であることを示し、音は出ませんが、回路が安定すればこのランプが消え演奏OKとなります。

■レコード演奏をする場合

INPUT SELECTOR[入力切換]スイッチ⑦をPHONO[フォノ]の位置に、CARTRIDGE SELECTOR[カートリッジ切換]スイッチ⑧およびPHONO SELECTOR[フォノ切換]スイッチ⑨をプレーヤーや使用カートリッジに合わせて切換え、プレーヤーを演奏状態にしたのちVOLUME[音量]ツマミ⑮をゆくりまわし、レコードからの音がスピーカーから出るようにしたのち音量、音質ツマミを適当な位置に調整してお聞ください。

■放送を聞く場合

INPUT SELECTOR[入力切換]スイッチ⑦をTUNER[チューナー]にし、チューナーを操作して放送受信状態にしたのち音量、音質ツマミを適当な位置に調整し、お好みの音質、音量にしてお楽しみください。

■テープ演奏をする場合

本機にはテープデッキを2台接続することができます。裏面TAPE-1端子に接続しているテープデッキを演奏する場

合はINPUT SELECTOR[入力切換]スイッチ⑦をTAPE-1[テープ-1]の位置に、裏面TAPE-2端子に接続しているテープデッキを演奏する場合はTAPE-2[テープ-2]の位置にしてデッキの再生操作を行ってください。

■録音する場合

REC SELECTOR[録音切換]スイッチ⑤を録音したいソースの位置に(例えばレコード演奏を録音する場合はPHONO[フォノ]の位置)にしてテープデッキの録音操作を行ってください。なお、録音レベルの調整はテープデッキ側で行なってください。

3ヘッドのテープデッキを使って録音している場合はINPUT SELECTOR[入力切換]スイッチ⑦を録音しているデッキの位置に(TAPE-1あるいはTAPE-2に)し、録音された音がすぐに再生でき、正しく録音されているかどうかモニターできます。

(注) 録音中はMODE[モード]スイッチ③はできるだけ動かさないようにしてください。

■テープダビングをする場合

2台のテープデッキを使ってすでに録音済みのテープから別のテープへ複写することをテープダビング(転写)と言います。本機でテープダビング操作は次のように行うことができます。

TAPE-1端子に接続されたテープデッキを(A)、TAPE-2端子に接続されたテープデッキを(B)としますと、

1. (A)から(B)へテープダビングする場合

REC SELECTOR[録音切換]スイッチ⑤をDUBBING1▶2[ダビング1▶2]の位置にし、(A)を再生状態に、(B)を録音状態にします。

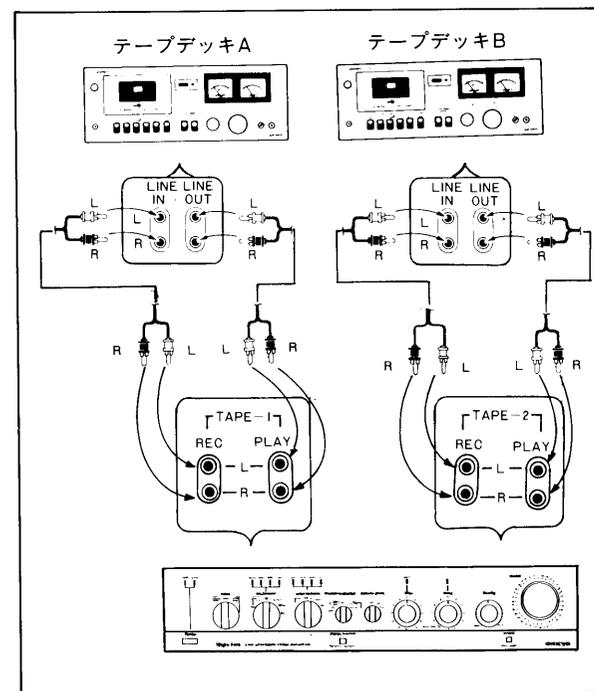
(B)のテープデッキが3ヘッドの場合は録音状態をモニターできます。INPUT SELECTOR[入力切換]スイッチ⑦をTAPE-1[テープ-1]にすると(B)へダビングされる前の(A)の音が、TAPE-2[テープ-2]の位置では録音されたばかりの(B)の音が聞けます。

2. (B)から(A)へダビングする場合

REC SELECTOR[録音切換]スイッチ⑤をDUBBING2▶1[ダビング2▶1]の位置にし、(B)を再生状態に、(A)を録音状態に

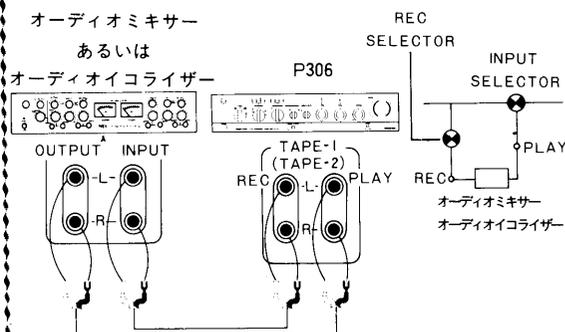
します。

(A)のテープデッキが3ヘッドの場合は録音状態をモニターできます。INPUT SELECTOR[入力切換]スイッチ⑦をTAPE-2[テープ-2]にすると(A)へダビングされる前の(B)の音が、TAPE-1[テープ-1]の位置では録音されたばかりの(A)の音が聞けます。



オーディオミキサーやオーディオコライザーを接続する場合

本機にオーディオミキサーを接続してマイクミキシングをしたり、オーディオコライザーを接続する場合は下図のようにTAPE-1(TAPE-2)端子に接続し、INPUT SELECTOR(入力切替)スイッチ⑦をTAPE-1(TAPE-2)へ、REC SELECTOR(録音切替)スイッチ⑤をミキシングするソースに合わせてください。



音量ブースト特性、同時変化方式について

本機では、ある程度以上音量を上げるに従って高音や低音のブースト量がだんだん少なくなるように設計されています。

すなわち、BASS(バス)ツマミ⑪やTREBLE(トレブル)ツマミ⑫を中央「0」の位置より右にまわし、低音および高音をブーストした状態でVOLUME(音量)ツマミ⑮を目盛「15」(12時の位置)より右にまわし、音量が増すに従い、だんだんブーストカーブがフラットになるように変化し、VOLUME(音量)ツマミ⑮を右いっぱいまでまわすと全くフラットな周波数特性となってしまいます。ただし、音量ツマミ⑮が目盛「15」より左の位置にある場合はブースト量が変化することはありません。またBASS(バス)ツマミ⑪やTREBLE(トレブル)ツマミ⑫を中央「0」の位置より左にまわし、ローカット、ハイカット特性の場合はVOLUME(音量)ツマミ⑮の位置に関係なく特性が変化します。

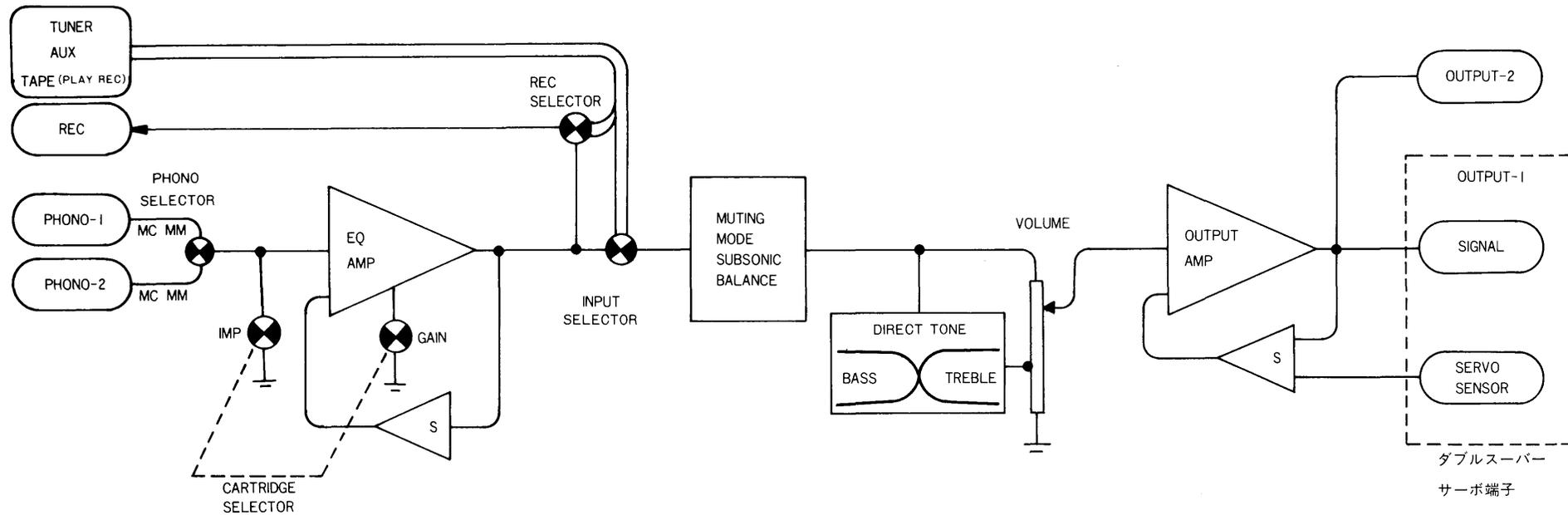
定格

入力感度、(入力インピーダンス)	PHONO—MC	130 μ V (100 Ω /330 Ω)
	PHONO—HIGH GAIN MC	2.5mV (100 Ω)
	PHONO—MM	2.5mV (47k Ω /100k Ω)
	TUNER、AUX、TAPE—PLAY	150mV (47k Ω)
定格出力電圧、(出力インピーダンス)	TAPE—REC	150mV (2.2k Ω)
	OUT PUT	1.5V 最大20V (220 Ω)
PHONO最大許容入力	MC THD0.05% 1kHz/10kHz	17mV/82mV
	MM、HIGH MC、THD0.05% 1kHz/10kHz	300mV/1400mV
周波数特性	MC	4Hz~150kHz (+0.2、-3dB)
	MM	1.8Hz~170kHz (+0.2、-3dB)
	TUNER、AUX、TAPE	0.8Hz~170kHz (+0、-3dB)
全高調波歪率 (T.H.D) (20Hz~20kHz出力電圧：3V)	MC VOL：30dB	0.01%以下
	MM VOL：30dB	0.003%以下
	TUNER、AUX、TAPE	0.003%以下
混交調歪率	定格出力時 SMPTE 70Hz：7kHz=4：1	0.003%以下
S/N (IHF-Aネットワーク) (入カシヤント)	MC	69dB
	MM	86dB
	TUNER、AUX、TAPE	100dB
トーンコントロール (VOL -20dB点)	BASS	\pm 8dB at 70Hz
	TREBLE	\pm 8dB at 20kHz
フィルター	HIGH CUT FILTER	7kHz 6dB/oct
	EQ SUBSONIC FILTER	15Hz/20Hz 6dB/oct
ミュートイリグ		-20dB
トランジェントキラー動作時間	POWER ON/OFF	7sec/100m sec
使用半導体		FET 6、Tr 47、IC4、Di37
電源		AC100V 50/60Hz
消費電力	電気用品取締法規格	20W
A C 出力	パワースイッチ連動2 パワースイッチ非連動1	TOTAL 1000W MAX
寸法	幅×高さ×奥行	450W×99H×407D mm
重量		7kg
付属品		スーパーサーボコード1、保証書1、サービス網一覧1、取扱説明書1

※定格仕様は性能向上のため予告なく変更する場合があります。

P-306

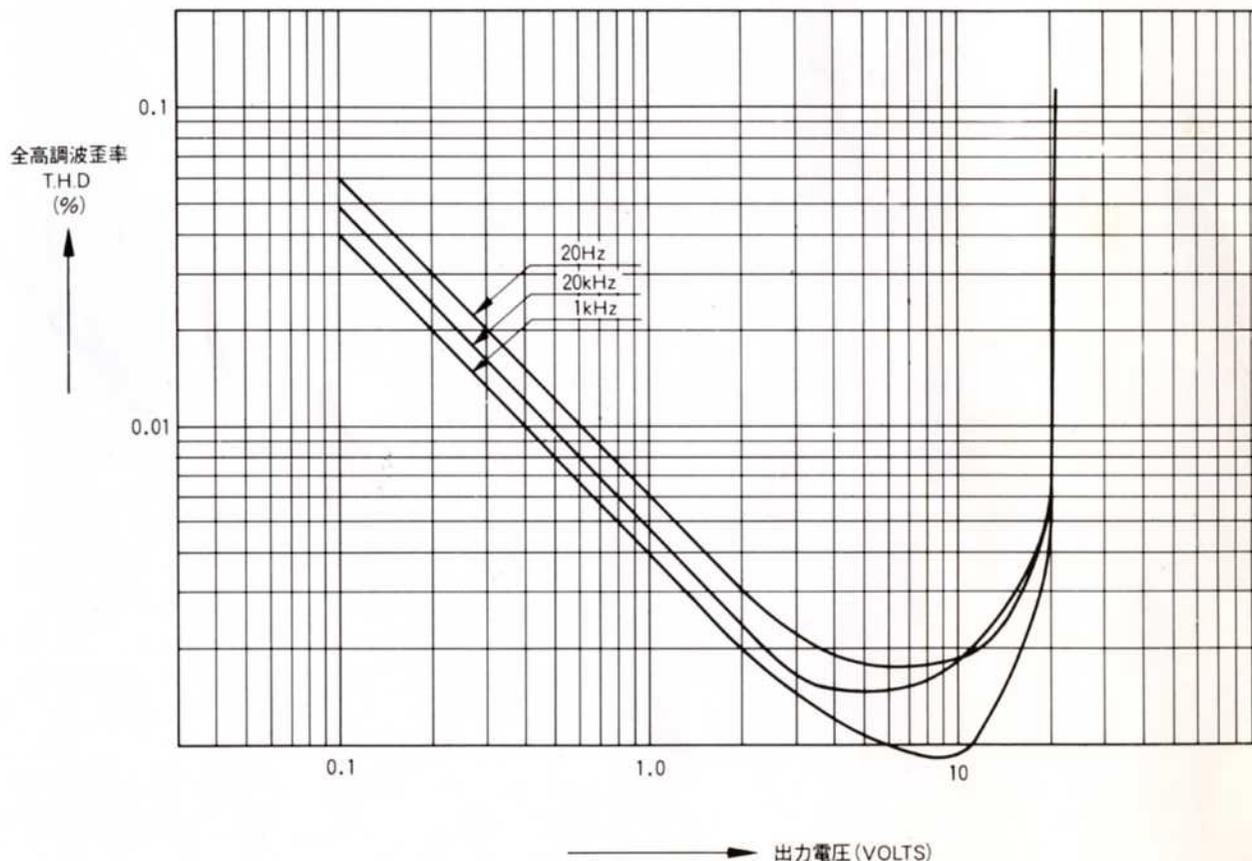
ブロックダイアグラム



サービスマンをお呼びになる前に

特性図

P-306:OUT PUT 出力対全高調波歪率特性



本機が正常に動作しない場合は、下記を参考にお調べください。これらの処理をしても直らないときや、これ以外のときはオンキョーサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。この場合には、電源コードをコンセントから抜いて「お名前」「おところ」「電話番号」「セット型名」「製造番号」「故障状況をできるだけ詳しく」お知らせください。

- 電源が入らない。
電源コンセントが正確に入っているか。
- 電源は入るが出力が出ない。
パワーアンプおよびスピーカーが故障していないか。
INPUT SELECTOR[入力切換]スイッチ⑦、PHONO SELECTOR[フォノ切換]スイッチ⑨、MUTING[ミュート]スイッチ⑭の位置が正しいか(7頁参照)
入力ピンコード、出力ピンコードの接続まちがひ、断線ショートがないか。(5、6頁参照)
STAND BYランプが点灯している場合は保護回路が働き出力が出なくなります。(7頁参照)
- ハムやハウリング、その他の雑音が入る。
入出力ピンコードのアースがはずれていないか。
プレーヤーやパワーアンプとのアースがはずれていないか。
プレーヤーとスピーカーが近すぎてハウリングが起っていないか。
近くに強力な送信機があると雑音が入ることがあります。
電源コードおよび電源トランスからの誘導音が入力カードから入ることがありますので、電源コードやトランスから入力コードを近づけないようにしてください。
- プレーヤーを演奏した場合出力が小さい。
MCカートリッジを使っているのにCARTRIDGE SELECTOR[カートリッジ切換]スイッチ⑧がMMの位置だと出力が小さくなります。
カートリッジを確かめてください。

ONKYO AUDIO COMPONENTS

■ オンキヨー(株) 寝屋川市日新町2番1号 〒572 ☎0720(33)5631

■ 東京オーディオセンター ☎03(251)7160

■ 大阪オーディオプラザ ☎06(315)8330

7121-7211

072-821-8000

www-jp.onkyo.com

(7-1100A)

050

3161

9555

SER/NO 8011
~~8011~~ 4628

SN29340375 02-99-1.3K-EIK